

## 海藻産業の成長の余地は1.7兆円 世界銀行報告【ワシントン共同】

世界銀行は、11月20日に、世界の海藻養殖市場は最大118億ドル(約1兆7600億ドル)規模の成長余地があるとする報告書を発表した。現状の市場規模は推定していないが、海藻を原料とした補助食品やプラスチックの代替品などの用途の多様化が期待され、今後伸びる有望市場だと紹介した。

2030年までの海藻市場の成長を試算して、日本について「食品としての海藻は飽和状態だが、海藻エキス市場は発展の余地がある」と指摘した。モスクやコンブなどの「ぬめり成分」となる食物繊維「フコイダン」が、ガン患者向けに需要があると例示し、2018年時点のフコイダンの市場規模は日本国内だけで、151億円だったと紹介されている。

新たな産業創出のほか、海藻産業は世界的に女性労働者が従事していることが多く、日本でも女性の雇用拡大につながる可能性がある。一方で、海藻エキスを使った健康食品の中には有効性が疑わしいものもあり、効果の確認などが重要となりそうである。

世界銀行は海藻を巡り、10の新事情があると説明した。短期的には、家畜の飼料やペットフードなどとして利用が拡大する見通しで、これらの領域で30年までに44億ドルの成長があると試算した。中期的には、再生可能なバイオプラスチックなどとしての利用で60億ドルの市場創生が期待される。

長期的な有望市場としては、14億ドル規模を見込む医薬品や建材を挙げた。ただ医薬品に開発には、多額の費用や政府の承認手続きが必要で、海藻を原料とした建材は用途が限られる点が課題である。

生産面では、現在は中国やインドネシア、韓国、フィリピンが多くを占める。用途の多様化などにともない。生産地域も広がる可能性がある。

世界銀行の担当者は共同通信の取材に、海藻市場は「食品以外で用途が広がり、成長が期待できる」とし、日本企業にアジアやアフリカ、中南米などでの投資を呼びかけた。

(高知新聞 2023年11月21日)